

YŌKOSO! JAPAN大使一覧(17名)

アレックス・カー氏(米)【(株)庵取締役会長】【東洋文化研究者】

京都の町家再生等に取り組み日本文化を体感できる観光資源創出に貢献

東洋文化研究者として、執筆、講演、通訳等の活動を通じて、日本に残っている素晴らしい田舎等の美しい景観や日本文化を諸外国へ発信してきた。また、自ら徳島県祖谷(いや)の茅葺古民家の修復に取り組むとともに、30年以上にわたり茶道、書道、能、狂言等の伝統文化の体験研修事業を実施してきた。さらに、平成15年末より、京都の町家の再生を図ることにより、外国人が京都の伝統的な町家への宿泊を体験することができるように尽力するとともに、このような取り組みを、地域との共働の下、全国に拡大しようとしている。



あんざい たかし

安齋 隆氏【(株)セブン銀行代表取締役社長】

海外発行カードで日本円をキャッシングできる旅行環境を整備

セブン銀行は、4カ国語(英語、韓国語、中国語、ポルトガル語)の画面と音声で対応が可能な12,000台超のATMを設置し、平成19年7月から海外発行カード対応のキャッシングサービス(24時間365日)を開始した。これにより、全国のセブンイレブンの店舗のほか、羽田空港、成田空港等のATMで海外発行カードを利用した日本円引出しが可能となっており、今後も設置箇所の一層の拡大が予定されているが、同氏はこれらの取り組みを社長として積極的に推進した。ATM画面ではビジット・ジャパン・キャンペーンのロゴが24時間表示されている。



おかだ くにひこ

岡田 邦彦氏【日本百貨店協会副会長】【(株)松坂屋取締役会長】

案内等百貨店内を多言語化し外国人旅行者のショッピング環境を整備

百貨店業界挙げての外国人観光客招致活動を提案し、自らその旗振り役として、日本百貨店協会に「外国人観光客招致プロジェクト」を立ち上げた。具体的には、外国人観光客に対応するための業界ポータルサイト「百貨店WORLD」、案内パンフレット、店内表示、館内放送等の多言語化のほか、決済手段の整備等、外国人観光客の受入れ体制の整備について取り組むとともに、YŌKOSO! JAPAN WEEKS 2008において業界を挙げて訪日外国人旅行者に対する割引キャンペーンを実施するなどインバウンドの推進に寄与している。



かい けんいち

甲斐 賢一氏【ホテル風月HAMMOND代表取締役社長】

地域ぐるみの外貨両替、外国人宿泊統計整備により別府での外客受入れを推進

平成9年より民間主導の「別府市外国人旅行者受入協議会」を設立し、その会長として10年にわたりインバウンドの受入環境整備に取り組んできた。具体的には、宿泊施設における韓国ウォン、台湾ドル、香港ドル、中国元、ユーロ、米ドルの外貨両替や大学と連携した国籍別の外国人宿泊統計制度の確立、外国人留学生を活用したボランティアガイド(英語、韓国語、中国語、タイ語)の育成等を実現させた。これらの取り組みの結果、同市の外国人宿泊者数は約21万人(平成18年)から約22.5万人(平成19年1月～11月)と人口(約12.3万人)の約2倍となっている。



クルト・キュブリ氏(スイス) 【高野山無量光院役僧】

仏・独・英・伊の各国語で、高野山の魅力を海外に紹介

外国人観光客、さらには欧米豪のメディアや旅行会社に、フランス語、ドイツ語、英語、イタリア語で高野山の曼荼羅、仏像、ふすま絵、精進料理、仏教行事等を解説し、その魅力を紹介している。さらに、欧州における観光セミナーにおいて、クルト氏自身が自らの僧侶としての知見・経験に基づき高野山紹介を実施することにより、高野山ひいては和歌山県の認知度アップ・外客誘致に貢献している。このような活動の結果、特にフランスでは、訪日旅行商品において高野山が数多く組み込まれるようになっている。



コシノ ジュンコ 氏 【ファッションデザイナー】

鈴木 弘之 氏 【プロデューサー】

「和」のイメージを体現したファッションを通じて日本を広く海外に発信

コシノジュンコ氏は、世界的なデザイナーとして、日本の魅力を世界に発信している。平成12年の沖縄サミットでは首脳らが着たかりゆしウェアをデザインしたほか、パリ・コレクション、北京の工人体育館やニューヨーク・メトロポリタン美術館でのファッション・ショー等、海外における注目度の高い場で、「和」のイメージを体現した数多くのファッションをデザインし、紹介している。



鈴木弘之氏は、フランス及びドイツにおけるVJC事業立ち上げ時に、パリ及びベルリンの日本大使公邸において、日本の文化等を紹介するイベントを「ニッポンのもてなし」をテーマにプロデュースしたほか、本年2月にアメリカで開催されるジャパンフェスティバルの企画を行う等、訪日プロモーションに積極的に協力している。

小柳 淳 氏 【小田急電鉄(株)経営政策本部カード戦略部長】(前 同交通事業本部旅客サービス部長)

鉄道事業者として外客向け案内所開設や歓迎イベントを推進

小田急はビジット・ジャパン・キャンペーンに先立ち、箱根・神奈川地区への玄関口である新宿駅に「小田急外国人旅行センター」を設置し、さらに、同案内所を(独)国際観光振興機構指定の「i」案内所に発展させ広く外客への情報提供に努めてきたが、小柳氏はその中でリーダー的役割を果たしてきた。また、鉄道利用の外客個人用バック商品の先駆けとなるツアー造成にも率先して取り組んだ。さらに、東アジアからの来訪が多い旧正月期に箱根地区のプロモーションのために「箱根歓迎春節遊客」を実施するとともに、同企画を新宿地区にも応用した。



飛田 克夫 氏 【旅館浅草指月社長】【ジャパニーズ・イン・グループ会長】

英語による情報発信を通じ、外国人旅行者の安価な常宿を提供

昭和54年に設立されたジャパニーズ・イン・グループは、外国人旅行者を積極的に受け入れる全国約80の旅館を構成員とし、英語パンフレットの作成・配布、英語ホームページの整備、年2回の研修会等を行っている。各会員旅館は安価な料金設定等にも努め、平成18年の外国人宿泊人数が延べ13.9万人に達している。飛田氏は、同グループの立ち上げ時から中心人物として各会員の訪日促進の取組みを支援するとともに、30年にわたり直接外国人旅行者に対応してきた。さらに(独)国際観光振興機構に提言を行う等訪日促進に精力的に活動している。



とりもと まさお
鳥本 政雄氏 【(株)加賀屋専務取締役営業本部長】

能登を中心とする広域観光ルートを設定し台湾からの誘客を推進

平成7年より台湾からの訪日促進に尽力し、平成16年には「能登包機受入協議会」を中心になって設立し、自ら代表幹事となって能登空港を利用したチャーターツアー造成を働きかける等により、毎年約2万人の台湾訪日客の石川県への誘致をもたらしている。能登での宿泊や民宿の利用、祭りの体験、輪島の朝市等を県域を越えた周遊コースに加える等地域観光と広域観光とのバランスをとるとともに、台湾人旅行者の旅行体験記を募集し冊子にとりまとめ台湾で配布を予定する等のアイデアにより、継続的に訪日客誘致に取り組んでいる。



ほっとり さちこ
服部 祐子氏 【パリ日仏文化センター エスパス服部 代表取締役】

私営の日仏文化センターで日本文化を紹介し仏国における訪日促進に貢献

ワインコンサルタント会社の共同経営の傍ら、フランスがビジット・ジャパン・キャンペーン重点市場となる以前の平成5年にパリに独力で「日仏文化センター」を設立し、美術工芸、演劇、音楽を含む様々な分野で日本文化を紹介する事業を展開して、一人でも多くのフランス人が日本に興味を持ち訪れたいという気持ちを起こすことに尽力してきた。平成16年の仏VJC現地推進会議の立ち上げ後においても、長年の仏在住の経験を生かした主要関係者との人的ネットワークによって、VJC東北地方連携事業の実現などフランスにおける訪日誘致活動に貢献している。



マーティン・バロウ氏(英) 【Japan Society副会長】(前 Director of Jardine Matheson Ltd.)

執筆活動により日本をPRし英国における訪日促進に貢献

昭和50年に商社であるJardine Matheson Ltd社の幹部として日本に赴任して以来、日本に深い愛着を持っており、退職後は英国におけるJapan Societyの副会長として日英交流の促進に寄与している。また、ビジット・ジャパン・キャンペーン推進会議の発足時より中核メンバーとして英国側メンバーの充実等に尽力するとともに、日英のVJC関係者による意見交換の場の主宰、来日時におけるVJC活動についての(独)国際観光振興機構等への提言、執筆活動を通じた日本PRなど訪日促進に高い貢献をしている。



まんどころ としこ
政所 利子氏 【(株)玄代表取締役】

使いやすいガイドブック制作や日本文化を体験できるワークショップ開催を推進

長年にわたり海外留学生の受入れ活動に従事するとともに、日本各地のまちづくりに参画する中で、各地域の伝統工芸や文化等を活用した地域ブランドづくりを進め、国内・海外への情報発信、地域活性化に貢献している。例えば、日韓サッカーワールドカップの開催(平成14年)に合わせて下町文化を発信するため駐在外国人の意見を踏まえた上で外国人が使いやすいガイドブックを編集したり、海外留学生向けに茶道・日本舞踊に関するワークショップを開催したりするなど、さまざまな取り組みを進めている。



やまざき

山崎 まゆみ 氏【文筆家】

露天温泉を海外に紹介し日本の温泉文化を海外に発信

初対面の人といきなり「裸の付き合い」ができる日本の温泉文化を世界に広めることが自らの使命であるという信念のもと、自ら入浴した日本各地約50カ所の露天風呂に関するガイドブックを利益度外視で繁体語版に訳し台湾で書籍として販売するとともに、現在はハングル語版の出版に向けた準備を進めている。また、本人が出演している番組が台湾全土、成田空港、複数の外国エアラインの機内において放映されているところであり、日本の温泉文化の発信に貢献している。



よこえ ともり

横江 友則 氏【(株)スルツとKANSAI代表取締役専務】

乗り放題チケットを海外展開し外国人旅行者が交通機関を利用しやすい環境を整備

平成8年に関西の鉄道事業者5社でスタートした共通磁気乗車カードのネットワークを関西圏の鉄道・バス利用者数の8割以上をカバーする43社にまで拡大させるとともに、外国人観光客専用の乗り放題共通磁気カードである「KANSAI THRU PASS」を商品化し、4カ国語(英語、韓国語、中国簡体字、中国繁体字)でガイドブックを作成し、海外で発売した。さまざまな観光施設と提携したセールスプロモーションを行う等により、24カ国・地域の諸外国の方々に利用されるに至っており、訪日外国人旅行者の公共交通機関の利用円滑化に貢献している。



リー ヨンス

李 容淑 氏(韓国)【(株)リンカイ代表取締役】

韓国からのインバウンドツアーを促進し営利を超えた日韓の理解増進に貢献

ビジット・ジャパン・キャンペーンが開始される前の平成7年に、主に韓国からのインバウンドツアーを取り扱う旅行会社を設立し、韓国人旅行者の訪日促進に積極的に貢献した。また、日韓両国の文化的な違いに対する理解を我が国の観光関係者の接遇向上に活かすための講演等を積極的に行ってきたほか、各地域の観光関係の委員会に委員として積極的に参画するなど、単なる営利目的や個人の知名度向上を超えた信念に基づき、日本と韓国の交流・理解増進に向けて活躍している。



ルーク・ハッフオード氏(豪)【ニセコ東山リゾート(株)マーケティング支配人】(前 ふらの観光協会誘客宣伝担当)

ニセコやふらのの通年リゾート化・国際的リゾート化を推進

北海道のふらのにおいて、地域の関係者が外客誘致の輪に加わるような橋渡しを行うとともに、豪州等の外国人スキー客が地域の人々や文化と交流しやすい環境整備を精力的に行った。また「京都・北海道国際観光客誘致推進協議会」の創設に貢献し、同協議会による豪州へのスキーセミナー参加、旅行博出展等をリードした。ニセコに活動拠点を移した後も英国から日本へのスキー客の誘致において一ホテルの立場を超えて中心的役割を果たすとともに、通年リゾート化、ファミリー重視の体験メニューの充実など国際的リゾートとしてのニセコの発展に取り組んでいる。

